

太白区生出地区民生委員児童委員協議会

(平成 27 年 3 月)

特色：太白区の南西部 丘陵地 都市型農業地域 ベッドタウン
少子化 人口減少 高齢化率が高い

震災状況：犠牲者（死者、行方不明者 3 名／区外で被災）
家屋全壊 3 件、大規模半壊 20 件、半壊多数

生出地区民児協は、生出、人来田、茂庭台の 3 つの町内会連合会地域を受け持ち、震災時にはそれぞれの地域ごとに活動を行ないました。

生出地域は住宅等の被害も少なく、指定避難所は開設されませんでした。町内会ごとに支援活動を実施、民児協としての組織的な活動は行ないませんでした。各町内会に属した民生委員・児童委員が災害時要援護者の安否確認等を実施し、必要に応じて飲料水、食料品、日用品の配布を発災後数日から 3 週間程度行ないました。

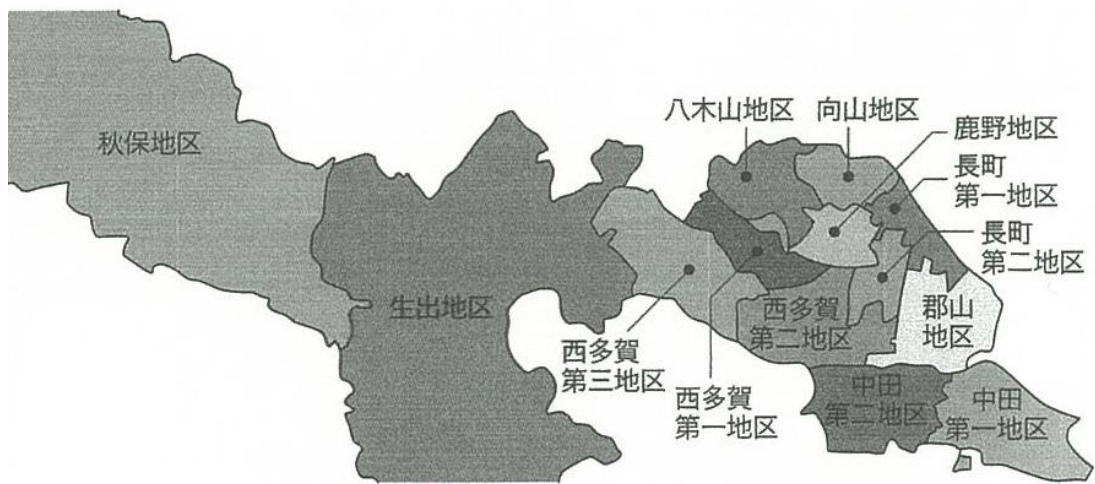
人来田地域は人来田小学校、人来田中学校を避難所として立ち上げ、地区民児協の副会長を中心に震災当日から翌日にかけて、要援護者名簿に基づき、安否確認を各担当民生委員・児童委員が行ないました。生活支援については、飲料水・食料品の配布を実施、避難所での炊き出しの手伝い、一部要援護者へ飲料水等の配布を行ないました。

茂庭台地域は、住宅等の被害は少なかったものの、ライフラインが完全に停止したため、茂庭台中学校、茂庭台小学校の 2 か所の避難所を開設しました。民児協として組織的に活動はできませんでしたが、各町内会が把握していた要援護者名簿に基づき民生委員・児童委員と地区社協の福祉委員が連携して安否確認を行ないました。町内会連合会を中心に各町内会の皆さんの協力で 3 月 11 日から 26 日まで避難所を運営しました。小学校の避難所には多い時で 400 人の住民が宿泊、1 日 2 回の食事は在宅避難者を含め 600 食を配布しました。

最も苦勞したことは、水の供給と避難所の仮設トイレの問題で、今後の対策が必要と考えています。今回の震災を体験して日頃から地域の中で声掛けを行ない、コミュニケーションを大切にすることが必要と強く感じました。

震災後、2 年を経て仙台市からの要請で「地域版避難所マニュアル」を作成、防災訓練を実施し、その検証と防災意識の向上を図っています。

また、平成 28 年 3 月には、復興公営住宅が 100 戸建設されることになっていますので、入居者を支援する体制、組織作りを進めて行きたいと思います。



太白区地区民生委員児童委員協議会の配置



太白区のシンボル太白山



茂庭台地域